

特別名勝・特別史跡 浜離宮恩賜庭園「鴨場」の文化を伝える

～「叉手網(さであみ)」製作の技能伝承と普及啓発の取組について～

1. はじめに

浜離宮恩賜庭園は、潮入式の池泉と2つの鴨場を持つ徳川将軍家唯一の別邸であり、江戸時代の大名の庭園の特色である回遊式庭園の様式を伝える代表例として国の特別名勝・特別史跡の指定を受けている。本園を含め首都東京にある9つの都立庭園は、江戸時代から続く歴史や文化、生活や伝統などを現代に伝える文化遺産である。(写真-1)

私たち東京都公園協会は、この貴重な都立庭園の価値を高め未来に継承することを使命とし、個々の庭園が持つ特性の理解を深めつつ、庭園景観を保全するための技術や技能の蓄積と向上に努めてきている。本稿では、その取組事例として、浜離宮恩賜庭園の鴨場の歴史と文化を伝えるために取り組んだ「叉手網(さであみ)」製作技能の伝承について報告したい。



写真-1 浜離宮恩賜庭園

2. 特別名勝・特別史跡 浜離宮恩賜庭園の「鴨場」と「叉手網(さであみ)」について

浜離宮恩賜庭園の「鴨場」は、江戸時代に歴代の将軍も嗜んだ鷹狩や鴨猟という武家文化を伝える当園の最重要施設の1つであり、江戸時代から明治時代まで社交や外交の場として利用されてきた。現代では「鴨場」は、宮内庁の新浜鴨場と埼玉鴨場などにしか残っておらず、一般に通常公開しているのは当園の鴨場のみである。

鴨場での狩猟は、江戸時代には主に鷹を使って鴨を捕獲していたが、明治時代になると絹糸で作られた手持ちの網「叉手網」を用いて鴨が飛びたつところを捕獲する技法となった。(写-2) いずれの捕獲技法も我が国で古くから行われてきた狩猟技法として伝承されている文化であり大変貴重であるが、鷹を使った技法は民間において僅かに受け継がれ、また網を用いた技法は皇室において継承されているだけである。

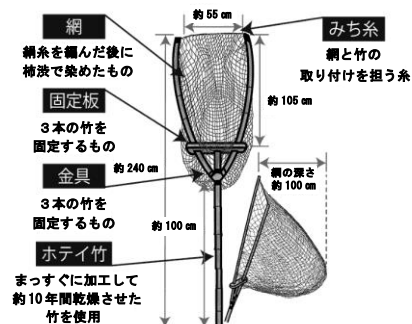


写真-2 叉手網

3. 文化遺産を後世に伝えるために

浜離宮恩賜庭園では、明治期離宮時代の鴨場の利用と文化を紹介するため「叉手網」を解説展示している。展示品は2009年に宮内庁より紹介いただいた新浜鴨場職員の協力の下で製作した品であり、その機会より伝統技能による製作指南を受けてきている。今回の製作では、当園の歴史と文化を後世に伝える術とするため「叉手網」製作に必要な技能や技術習得を図り、更に製作に係る内容の記録にも挑戦した。

3. 1 「叉手網」製作に係る伝統技能の伝承と記録

叉手網は、伝統の工法や技能を駆使しながら、10年以上の歳月を掛け製作する。例えば、竿は竹のホテイチクで、採取した後に熱を加えて曲がりを取りまっすぐにするのだが、急激な加熱では割れてしまうため木炭の熱と専用の道具を添え当てながら矯正していく。(写真-3)その後年月をかけ乾燥させ水分を抜き切ることで、骨組みとしての強度を高める。この竿の準備は、前回製作時の指導以来、職員で引き継ぎながら今回に向け用意してきた。網を張る部分で2本、竿で1本の合計3本で成る竿であるが、特に網を張る部分はしなり具合等が対となるホテイチクが必要なため、良質な同等品を材とし準備してきた。

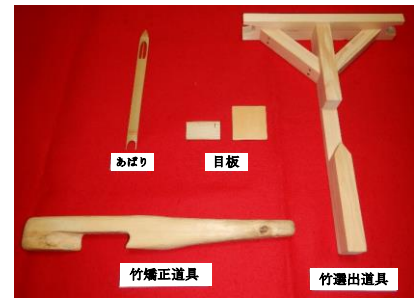


写真-3 必要道具は手作り

網は、糸の硬さや太さを細かく指定し撚って設えた絹糸を、竹を割って手作りした専用道具で袋状となるよう編んで形にする。編み上げた網は、仕上げに柿渋で染め絞り、天日で干して網目の固定と強度を高めて完成となる。指導いただきながらの実際の編み込み作業は録画し、後に繰り返し確認しながら手が慣れるまで特訓することでようやく網とすることができた。(写真-4)今回は、仕上げ作業の前に編み上げた網を、今度は解きながら網目の

つながりを何度も確認し、編み込み作業の手の技を「編み図」として図面化することができた。(写真-5)



写真-4 竹製道具と編み方



写真-5 網目の確認作業

3. 2 技能を伝承するために

材料の確保や準備、必要道具の作成、網込みから仕上げまで一連の製作工程を体験し、製作に必要な伝統の技能や技術の習得に励みながら2本の「叉手網」を作ることができた。また口伝継承されてきた内容を録画や図面で目に見える形で残すことができ、私たち公園協会の職員で伝統の技を繋いでいく準備は整った。一朝一夕では身につかない難しさのある技能伝承ではあるが、直接指導を受けた職員が記録を確認しながら網を編む訓練を適宜行うことで体得に努めているとともに、当園の鴨場の歴史と文化を次の世代に伝えていくためにOJTでも取り組み伝承を図っている。(写真-6)



写真-6 OJTによる技能伝承

4. 浜離宮恩賜庭園の「鴨場」の歴史と文化を伝える

私たち東京都公園協会は、浜離宮恩賜庭園の「鴨場」の貴重性と歴史や文化を、「叉手網」の紹介や放鷹(ほうよう)と呼ばれる鷹や隼を使った捕獲技法の実演公開、また映像や展示による解説等で幅広い世代の利用者や国内外に向けて発信するとともに、私たちが引き継いできた伝統技能を用いた維持管理により水鳥が飛来する鴨場とその周辺景観を整えていくことで、国指定の特別名勝・特別史跡「浜離宮恩賜庭園」の価値を保存し更に高めながら、確実に次世代に継承していきたい。(写真-7)



写真-7 放鷹術イベントの様子